

第187号

西光

令和3年9月3日発行

靈閑だより「黙」

気になる…

彼岸って何？ どこ？

日常に溶け込む仏教語「師子」 ～浄土宗西山勤行式から～

門前掲示板 宗祖法然上人立教開宗850年

坊主のつぶやき

秋のお彼岸法要のご案内

靈閑だより

「黙」



神、仏もびっくり

お釈迦様や神様もアルコールで消毒してから、お参りする時代が来るとは思っていなかったでしょう。お香で身も心も浄めましようとうと悠長なことを言っている場合ではございません。手はできれば濃度の高いアルコールでしっかりと滅菌消毒しましょう。手水舎ちょうずやで水をすくって手を洗い浄めるだけでは全然ダメです。口をゆすぐなんてとんでもない。飛沫が飛びちりますからお止めください。お参りの際は数珠じゆずは忘れてもマスクはお忘れなく。なんてことが冗談ではなくなってきました。まいりました。

黙、黙、黙

世間では目下、黙○が流行っています。連れがいても喋らず食べる黙食、連れがいても喋らず湯につかる黙浴。その内、京都などの観光寺院では連れがいても喋りながらのお参りはお控えください、「黙拝」「黙参」しましょうなどと張り紙が登場するかもしれません

ん。我々も法事などでよかつたらご一緒にお経をおあげ下さいと気軽に言えなくなりしました。それこそ黙読でお願いしますと。

どうもコロナが流行ってからのというもの、暗黙のルールが一気に増えたような気がします。あ、暗黙、ここにも「黙」が。年末に発表される今年の漢字、昨年は「密」でしたが、今年は「黙」でいかがでしょう。メディアでは黙活などといって、「黙って○○する」ことを流行らせるんだろうな…と想っていたら、なんともう既にいっぱいあるではないですか！次の黙活全部言えますか。

(Wikipediaより)

黙買…スーパーなどでは黙って買い物
黙歩・黙走・黙トレ…静かにウォーキング、ジョギング、トレーニング
黙煙…喫煙所では黙って吸いましょう
黙式…式典では合唱などは自粛
黙乗…公共の乗り物には静かに乗りましょう
黙援…応援は声を出さず拍手や横断幕などで
黙勉…授業は静かに受けましょう



もはや何でもありという感じですが、結局は外では会話は控えましょうということでしょう。つついというっかりしていても大丈夫です。周りからの冷やかな目線で、はっとすぐに気づかせてくれます。

仏教は「黙」と相性がよい

仏教はそもそも「黙」とは相性がよいのです。むしろ基本的には黙です。修行中はそれこそ黙食でした。喋るどころか箸や食器で余計な音をたてることも憚られました。それは水行、作務（掃除）、勤行、礼拝行、座禅行みなそうでした。余念なく、ただただそれに向き合うのみです。「はよ終わらへんかな」という余計なことを考えてしまうのが、悲しいかな私たち人間です。「黙する」「黙々とする」時間になかなか耐えられないのです。現代人は「ながら」の達人です。耳ではイヤホンで音楽を聴き、目はスマホの画面をじっと見つめながら、食べ物を口に運ぶなんてのはお手のものです。黙食に違いありませんが…

禅の教えに学ぶ

禅の言葉にこんな言葉があります。

・茶に逢うては茶を喫し、

飯に逢うては飯を喫す（瑩山禅師）

お茶を頂くときにはそのお茶を飲み、ご飯を頂く時はそのご飯を頂く。乱暴な言い方をすれば「茶なら茶、メシならメシ」です。ほとんど同じですが、こんな言葉もあります。

・仏法元来多子なし、
喫茶喫飯、又着衣（愚堂国師）

仏の教えには別に秘事はなく、時に応じて茶を飲み、食事をとり、着物を着る、ただそれだけ。いずれも禅の教えの神髄と云ったところでしょう。

他のことを考えずそのことだけに集中する、何も考えない。ですので、テレビを見ながら写経をしてはいけません。それが「黙して〇〇する」ということかと思えます。意外に息抜きになったり、イライラがリセットされたり、もしかすると新たな発想が思い浮かんだり、一度試す価値はあるかもしれません。

気になる…

彼岸つて

何? どこ?!

迷わず行けよ。行けば分かるさ。

ありがとう!

イーチ、ニー、サン、ダアー!

アントニオ猪木氏の名言からスタートです。

この猪木氏の元ネタは、今月の門前掲示板にも
一書かかせて頂きましたが、ここに全文をご紹介
いたします。

この道を行けば どうなるのかと

危ぶむなかれ 危ぶめば道はなし

ふみ出せば その一足が道となる

その一足が道である

わからなくても歩いて行け 行けばわかるよ

明治の偉大な宗教家清沢満之きよざわまんしの孫にあたる清
沢哲夫の「道」という詩です。猪木氏の意図と
は違いますが、これは完全に左の絵の説明に
なっています。どういうことかと言いますと、

こっち側の岸しがん(此岸)から、火の河と水の河の
間にある細い白い道をビクビク渡ろうとしてい
る人物に向かって、お釈迦さま(右側の仏さ
ま)が、「この道を行けば どうなるのかと
危ぶむなかれ 迷わず行けよ」とおっしゃって
いるのです。するとあちら側の岸ひがん(彼岸)から
阿弥陀仏が「安心してこちらへ来なさい」とお
迎えに来ているのです。迎えに来るから来迎仏
というのです。前回の『西光』にてお葬式で故
人に最後のお手紙を読む「引導いんどう」という作法を
ご紹介しましたが、その引導の中でも、「必ず

あなたは極楽へ往生するのです、案ずるな、安
んじて行け」という旨のお手紙の文面を読んで
送り出します。絵の下側には猛獣や盗賊がみえ
ます。こちらは娑婆世界しゃば、つまり私たちの今生
きている世界。そして絵の上側に見えている宮
殿は極楽の世界です。つまり彼岸です。お釈迦
さまが「阿弥陀仏の極楽の世界はこんな素晴ら
しいところなんですよ」と説いたお経を讀ん
で、故人をお送りするのですから、お釈迦さま
は、やはりこちら側にいないとダメなんです。

その仏さまの境地に到るために、太陽が真西
に沈む(極楽世界は西方にある)春分・秋分の
日の中日として、前後一週間の修養期間が設け
られているのです。



善導大師ぜんどうだいし(仏壇の向かって右側
の方)が説く譬えを図示した
「二河白道図」にがびやくどうず(西光寺所有)。
極楽往生を願うことを勧めている。

日常に溶け込む仏教語

浄土宗西山勤行式から

【師子】

（獅子）

仲良しのライオンとトラの友情を描いた仏教物語を読んでいたら、「ライオンとトラは生息地が違うから出会うことはないんですよ」と。最近、最強動物対決の本を愛読している息子に教わりました。

今年もコロナ禍にあって、いつも通りの祭りの実施は見送られたようです。そこで少しでも祭りに関わるネタを。今回はライオン⇨獅子です。獅子は仏典にもよく登場します。仏典では通常「𧰨」を付けず「師子」と書きますが、同じものです。師子は『肆誓偈』というお経の後半に出てきます。

為衆開法蔵
人々の為に、真実の教えが満つる蔵を開け放ち

広施功德宝
その功德の宝を広く皆に施し

常於大衆中
常に人々の中において

説法師子吼
獅子が吼えるよう雄弁に法を説かん

（肆誓偈）

ところで獅子舞は奈良時代に仏教と共に中国の唐より伝えられたといわれています。大塩天満宮の祭神、菅原道真の少し前くらいでしょうか。祭り好きの皆様は獅子舞を語るなど釈迦に説法ですが、この度は釈迦の説法の方です。百獣の王、獅子が吠（吼）えると獣たちがひれ伏すように、仏（ブツダ）の説法には聞く者を畏伏させる力があることから、仏を獅子に譬え、仏の

説法を「師子吼」といいます。今では熱弁をふるう様子に使ったりします。

他の經典に出てくる例えで「獅子身中の虫」という諺もあります。獅子の体内に寄生している虫は、体内にいてその恩恵を蒙りながら、少しずつ獅子の肉を蝕んでいき、致命傷を与えます。仏の弟子の中にも、外面はしっかり修行に励んでいるように見せかけ、陰では仏法や戒を平気で破っている連中がいたのでしょう。お釈迦様はそれを戒めるために、「最大の敵は外に非ず、内にあり」と言われたのです。ここから平生は味方のような顔をしながら、恩を仇で返すような裏切り者を指すようになりました。

もっと馴染み深い言葉で、獅子奮迅の活躍などと言いますが、獅子奮迅もやはり經典の中に出てくる言葉です。ちなみに動物園で獅子（ライオン）が奮迅している様子を見たためしがありません。だいたいダルそうに寝ています。

来年こそは秋に獅子が吼える様を見たいものです。



浄土宗西山勤行式

門前掲示板より

七月 イツモ静カニ笑ツテイル

(宮沢賢治)

八月 およそあてにならぬものを

あてにしている

九月 ふみ出せば

その一足が道となる

(清沢哲夫「道」)

8/7 施餓鬼会の日、燃える朝焼け (駐車場より)



宗祖法然上人立教開宗850年

令和6年は法然上人が浄土宗を開いて850年の節目の年になります。それに向けて本山永観堂では様々な記念事業を計画しています。特設Webサイトもこの8月よりオープンしておりますので、記念事業の詳細はWebをご覧ください↓このWebサイトでは、イベントや企画の告知やレポートの発信にとどまらず、仏教に関する多種多様な話題を、様々な書き手が独自の切り口で発信しております(私も時々登場します)。コロナ禍にあって、残念ながら次々と企画が延期・中止に追い込まれていますが、Webから盛り上げていければと思っておりますので、また覗いてみて下さい!



<https://honen850.jp/>

ご逝去の報

東ノ丁	中川司郎さん	82歳	7月15日没
西ノ丁	入江鈴子さん	80歳	8月6日没
西浜	瀬田俊春さん	94歳	8月10日没
曾根	井川博之さん	84歳	8月11日没
西ノ丁	歌野勝司さん	81歳	8月25日没
宮本丁	生嶋よそゑさん	89歳	8月31日没

坊主のつがやき

100年前の朱印のご縁



ある日、この朱印は貴寺院のもので間違いないでしょうかという確認のお手紙が私の元へ届きました。確かにこの字は先々代霊瑞上人の字に間違いありません。手紙の差出人はしゃかによらいけはん釈迦如来華判という朱印の研究をなさっている

方の方で、当山のこの朱印に興味を持たれたようです。そこで釈迦如来華判の搜索活動を開始したところ、運よく発見できたのです。先方も実物の捺印を目にすることができて喜んで頂けたようです。また何かの折に紹介させて頂きたいとのこと。100年前に書かれた朱印帳を通じて頂いたご縁に感謝です。



←当山所有の釈迦如来華判。しゃかほういん釈迦宝印ともいい、チドリ(千鳥)が波の上で遊んでいる姿を表しているそう。そう言われると見えなくもない…

※当山は印南西国33カ所霊場の第四番札所。印南西国33カ所霊場は、西国33カ所霊場にならって正徳2年(1712)に創設されたもの。この納経帳に昭和3年とあるのは、ちょうど大正12年に復興されて盛んにお参りされていた時期であったのではないかと思います。

反省…

例年、大塩小学校の2年生が町探検の一環でお寺にも来てくれています。昨年は中止、今年は先生が事前取材に来られました。生徒たちは取材映像を学校で見て学んでくれたようです。カメラの向こう側の子供達を思いながら話さねばならないのですが、なかなか無観客ライブは難しい。。。30点です。逆にいつもは子供たちの生の反応に大いに助けられていたのだと痛感しました。この反省を活かしつつ、いや来年こそは直にお寺の雰囲気味わってもらえることを願っております。



お盆参り、施餓鬼会の御礼

土砂降りの雨、カンカン照り、どちらがマシか。究極の質問ですが、軍配は土砂降りの雨で上がりです。例年8月に入ると連日カンカン照りで、疲労が日に日にどんどん蓄積していくのが感じられました。しかし今年は連日雨模様で、お参りをするのは大変ですが、気温が比較的安く抑えられ、照りがなかったことで、身体が思いのほか楽でした。昨年に続き今年もコロナ禍の下でのお盆参り(棚経)、また施餓鬼会となりましたが、皆様にはご理解並びにお気遣いを賜り誠に有難うございました。



秋のお彼岸法要

九月二十三日（木・秋分の日）

朝のお勤め 午前七時～

昼のお勤め 午前十一時～

夕のお勤め 午後四時～

※各回ともお勤めの時間は二十～三十分です

※お説教・塔婆とうば回向えこうは実施致しません



目下緊急事態宣言中であり、さらに延長されるような話も出てきています。つきましては、この秋のお彼岸は、右記の通りお勤めのみ形式で実施致します。お参りの分散化を図るべく、一日三度お勤めを致しますので、ご都合の宜しい時間帯にお参り下さい。お勤めの内容は三度とも異なりますので、三回ともお参り頂くのも大歓迎です。入退室は自由です。手だけ合わせてお帰り頂いても構いません。変則的な形ではございますが、仏さま、ご先祖に対し、手を合わせる機会だけはお作りさせて頂きたいと思っております。法要はお寺にとつての生命線です。お墓参りに合わせて、本堂へもお参り頂ければ幸いです。

『西光』187号 令和3年9月3日発行

〒671-0101 姫路市大塩町229



浄土宗西山禅林寺派

雲龍山 西光寺 住職 大塚靈閑

Tel 079-254-0351 Fax 079-254-4142